

学び続ける事務組織と実践する職員の育て方

宮林 常崇(東京都立大学 教務課長・開設準備担当課長兼務)

講師略歴

公立大学法人首都大学東京(現 東京都公立大学法人)に入職後、教務畑を中心に歩み、文部科学省出向、URA室長、企画広報課長、東京都立産業技術大学院大学管理課長、理系管理課長等を経て2025年4月から現職。主に職員の人材育成、高等教育法令・政策、アカハラ予防に関する研修を担当している。愛媛大学教育企画室(教職員能力開発拠点)プロジェクトフェロー、名古屋大学高等教育研究センター大学教務実践研究会事務局長、公立大学協会事務局参与。文科省「大学におけるハラスメント防止等の推進に向けた普及啓発に関する調査研究」有識者会議委員。著書に『大学の教務 Q&A 第2版』(共編著)、『大学業務の実践方法』(共編著)、『大学教育の国際化』(共編著)、『大学教育と学生支援』(分担執筆)などがある。

プログラム概要

学ばない・学べない事務組織には、どのような背景や課題があるのでしょうか。職場の中には、マイナスをゼロにする仕事に日々忙殺され根本的な課題解決に着手できない、欠員と連携不足により最低限の業務遂行すら危うい状況などを耳にします。学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくりのために、まずはこのような状況を緩和し、次に、強く・しなやかな事務組織を作り上げていくことも必要です。

この研修は、職場を取り巻く様々な課題を緩和することと、学び実践する職員をどのように育成するか、という2つの難題を職場単位の取り組み中心に考えます。例えば、業務分担や目標管理、ミーティングや学びの場づくりの方法で職場は大きく変わります。この研修で扱うマネジメントの手法は基本が中心ですが、それを大学組織の文脈で捉えなおしてみます。また、リーダーが抱えがちな孤独や不安に向き合いながら組織改善を続けるための工夫や心構えも扱います。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

- ・事務組織のマネジメントに関心のある教職員
- ・事務組織のリーダー(課長や係長など)
- ・リーダーを目指すべきか悩んでいる職員
- ・単科大学におけるフリーアドレス&在宅勤務環境導入の実践例に興味のある方

到達目標

1. 個人ではなくチームで組織改善に取り組むことができる。
2. 職員の学びの場づくりに貢献できる。
3. 実践できる職員の育成に貢献できる。